

ぼうさいこくたい 2021 において、セッションの開催、ポスター展示を実施しました (2021/11/6-7)

テーマ：産学官連携、情報発信、防災・減災
場 所：釜石市民ホール TETTO（岩手県釜石市）

2021 年 11 月 6 日（土）・7 日（日）に、釜石市民ホール TETTO（岩手県釜石市）において、防災推進国民大会 2021 実行委員会（内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）の主催による「ぼうさいこくたい 2021（防災推進国民大会）」が開催され、当研究所はセッションを開催し、プレゼンブースでの展示も行いました。

セッションでは、「社会と東北大学が共につむぐレジリエントな世界」と題して、工学・理学・医学・人文社会科学の分野横断的な連携研究も特徴とする当研究所の目指す”実践的防災学の創成”というミッションについて、また、社会のさまざまな主体と積極的に連携してレジリエントな世界を構築するための活動について発表を行いました。内容と登壇者については、以下の通りです。

開会挨拶と趣旨説明 副所長・教授 丸谷浩明（司会兼務、防災社会推進分野）

事例報告①「リアルタイム津波浸水被害予測システム」

災害ジオインフォマティクス研究分野 教授 越村俊一（オンライン参加）

事例報告②「防災勇士トリプルウィングの制作と防災啓発活動への展開」

国際防災戦略研究分野 教授 村尾修（オンライン参加）

事例報告③「日本全国の防災力を底上げする：ヤフー防災模試」

防災社会推進分野 准教授 佐藤翔輔

事例報告④「産学官民・メディア連携が開く未来:みやぎ防災・減災円卓会議の発信」

みやぎ防災・減災円卓会議 世話人 武田真一（当研究所学術研究員）

会場には 39 名（登壇者、事務局を除く）、オンラインでは 12 名の方にご参加いただき、当研究所の多様な活動に対する期待と応援のコメントもいただきました。



セッションの開会挨拶（丸谷教授）

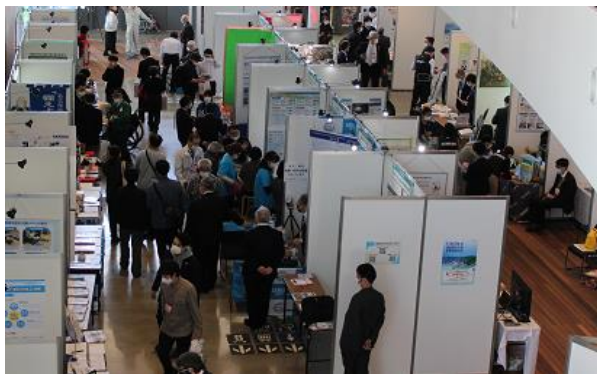


セッション発表の様子

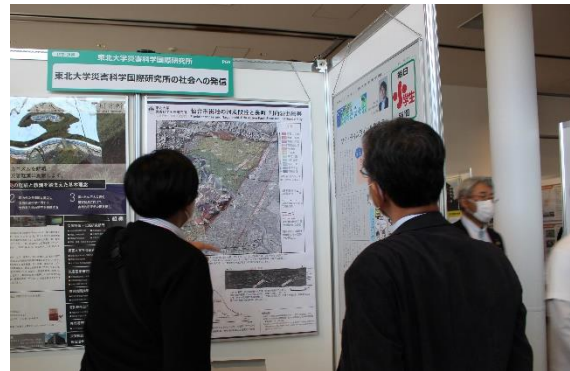
プレゼンブースでの展示では、国内外の小中学校生・一般市民・行政・研究者など様々な方を対象に、東日本大震災の教訓・最先端研究成果・防災力向上に役立つツールやノウハウなどを展示しました。当研究所紹介のポスター、陸域地震学・火山学研究分野の「仙台市街地の河成段丘と長町一利府線断層帯」のポスター、小学生向けのポスター2点を展示し、当研究所のパンフレット、広報誌等の配布、震災10年出版『東日本大震災からのスタート-災害を考える51のアプローチ』の紹介などを行いました。ブースの運営は、高橋尚志助教（陸域地震学・火山学研究分野）、伊藤修人技術補佐員（防災社会推進分野）、鈴木通江技術職員（広報室）、丸谷浩明教授等が担当し、2日間の展示で100名以上の方に、当研究所の資料をお渡ししながらご説明することができました。

また、「世界防災フォーラム」についてご紹介する展示では、2030国際防災アジェンダ推進オフィスの小野裕一教授、佐々木大輔助教、坂本壮研究員が担当しました。

その他、地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門がワークショップを開催しました。ワークショップに関するアクティビティレポートは、別途掲載しております。



プレゼンブース会場の様子



パネルの説明を行う高橋助教（左）

当研究所は、「ぼうさいこくたい」に初回の2016年以来、継続的に参加しており、内閣府をはじめとした関係組織と連携した、防災・減災の取組みの発信の貴重な機会としています。

文責：丸谷浩明、伊藤修人（防災社会推進分野）